

## ○ がん対策推進基本計画に掲げる主な目標に対する進捗状況

主な目標	ベースライン	現状	目標達成時期
がんによる死亡者の減少 ※ <sup>1</sup> (75歳未満の年齢調整死亡率の20%減少)【10年以内】	平成17年 92.4 (100%)	平成20年 87.2 (94.4%)	平成27年 73.9以下 (80%以下)
医療機関の整備等 原則として全国すべての※ <sup>2</sup> 医療圏において、概ね1か所程度 拠点病院を設置【3年以内】	平成19年度 79.9% 〔 286施設 358医療圏 〕	平成21年4月1日 104.7% 〔 375施設 358医療圏 〕	平成21年度末 100%以上 〔 358施設以上 358医療圏 〕
がん医療に関する相談支援及び 情報提供 原則として全国すべての※ <sup>2</sup> 医療圏において、相談支援セン ターを概ね1か所程度整備 【3年以内】	平成19年度 42.2% 〔 151施設 358医療圏 〕	平成21年4月1日 104.7% 〔 375施設 358医療圏 〕	平成21年度末 100%以上 〔 358施設以上 358医療圏 〕
がんの早期発見 効果的・効率的な受診間隔や 重点的に受診勧奨すべき対象者 を考慮しつつ、受診率を50% ※ <sup>3</sup> 以上とする。【5年以内】	平成16年度 (男性) 胃 27.6% 肺 16.7% 大腸 22.2% (女性) 胃 22.4% 肺 13.5% 大腸 18.5% 子宮 20.8% 乳 19.8%	平成19年度 (男性) 胃 32.5% 肺 25.7% 大腸 27.5% (女性) 胃 25.3% 肺 21.1% 大腸 22.7% 子宮 21.3% 乳 20.3%	平成23年度末 (男性) 胃 50%以上 肺 50%以上 大腸 50%以上 (女性) 胃 50%以上 肺 50%以上 大腸 50%以上 子宮 50%以上 乳 50%以上

※1 昭和60年当時に、現在の医療提供体制が整備されていたと仮定した場合の100,000人当たりの死亡者数を表す。

※2 平成19年度末現在の医療圏数をベースとした。(現時点の医療圏数は348)

※3 国民生活基礎調査から。(当該調査は3年に1回実施)

## がんに関する統計（平成21年12月2日現在）

項目	現 状	出 典
死 亡 数	<p><b>総数33万6,468人（全死因に対し30.4%）</b></p> <p>[男性 20万2,743人]（全死因に対し34.2%） [女性 13万3,725人]（全死因に対し25.9%）</p> <p>→ <u>“日本人の3人に1人ががんで死亡”</u></p> <p>※ がんは加齢により発症リスク増 → 粗死亡数は増加傾向（高齢化の影響） ※ 年齢調整死亡率（75歳未満）は、平成7年以降減少傾向（平成7年：108.4 → 平成20年 87.2） ※ がんの種類が変化している</p>	人口動態統計 （平成19年）
罹 患 数	<p><b>64万1,594人</b></p> <p>[男性 37万2,374人] 多い部位：①胃、②大腸、③肺、④前立腺、⑤肝臓 [女性 26万9,220人] 多い部位：①乳房、②大腸、③胃、④子宮、⑤肺 ※ 男女とも、上位5部位のがんで、全がん患者の6割以上を占める</p>	地域がん登録 全国推計値 （平成15年）
生涯リスク	<p><b>男性：54%、女性：41%</b></p> <p>→ <u>“日本人の2人に1人ががんになる”</u></p>	国立がんセンターがん対策 情報センター による推計値 （平成15年）
受療・患者	<p><b>継続的な医療を受けている者は142万人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査日に入院中の者は14万4,900人</li> <li>・ 外来受診した者は14万100人</li> <li>・ 1日に28万5,000人が受療（全受療の3.3%）</li> <li>・ 平均診療間隔は11.6日</li> </ul>	患者調査 （平成17年）
がん医療費	<p><b>2兆6,958億円</b></p> <p>※ 一般診療医療費全体の10.5%</p>	国民医療費 （平成19年）